

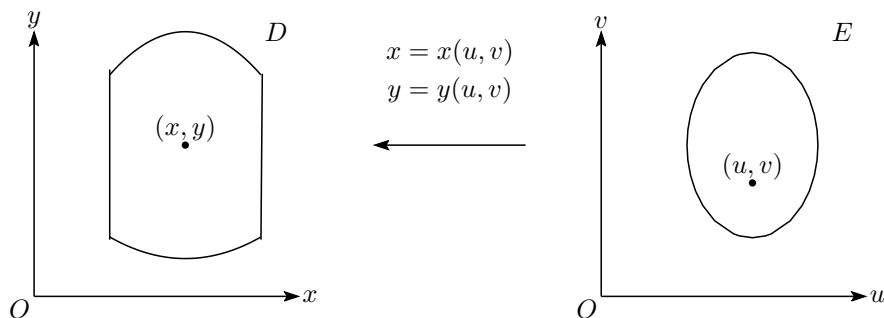
10 重積分の変数変換 (1)

• 10-1 : 変数変換の考え方

領域 $D \subset \mathbb{R}^2$ 上で重積分可能な 2 変数関数 $z = f(x, y)$ について, x および y が u, v に関する関数

$$x = x(u, v), \quad y = y(u, v)$$

で表されていたとする. この対応によって, xy 平面の領域 D が uv 平面の領域 E に変換されたとしよう. ことでの目標は重積分 $\iint_D f(x, y) dx dy$ を E 上の u, v に関する重積分に変換して計算することである, そのためには, $x = x(u, v), y = y(u, v)$ によって領域 D が領域 E に **1:1 にうつると仮定する.** 「1:1 にうつる」とは, D 上の異なる点 (x, y) に対して E 上の異なる点 (u, v) が対応する, ということである.



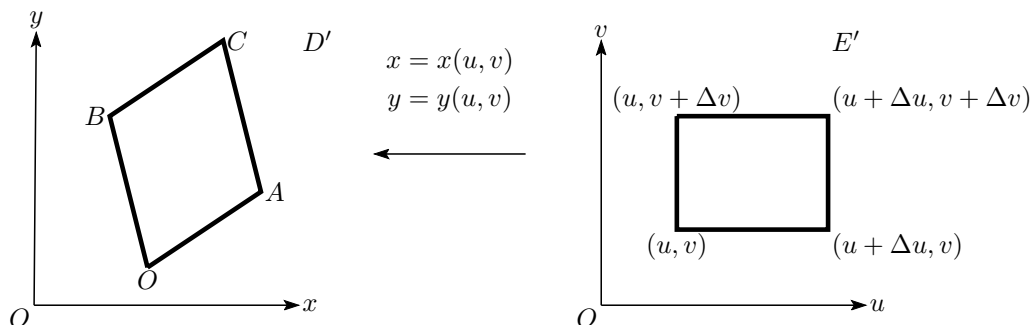
重積分の定義を思い出そう.

$z = f(x, y)$ を有界領域 D 上で重積分可能な関数とする. 領域 D を LN 個の微小長方形 $D_{ij} := [x_{i-1}, x_i] \times [y_{j-1}, y_j]$ で細かく分割し, 各小長方形 D_{ij} から任意に点 (x_{ij}, y_{ij}) をとり, D_{ij} の面積を S_{ij} とおくと

$$\iint_D f(x, y) dx dy = \lim_{L, N \rightarrow \infty} \sum_{i=1}^L \sum_{j=1}^N f(x_{ij}, y_{ij}) S_{ij}$$

と定義されていたのであった. 従って, 重積分は微小長方形の面積 S_{ij} に関数の値 $f(x_{ij}, y_{ij})$ をかけた値の和の極限ということになる.

さて, 目標は重積分を変数変換によって計算することである. この変換によって uv 平面上の微小長方形 $E' = [u, u + \Delta u] \times [v, v + \Delta v]$ が xy 平面の微小領域 D' に変換されたしよう. 領域 E' が十分小さければ領域 D' は平行四辺形に近似される.



領域 D' での点 O, A, B, C のそれぞれの座標は

$$\begin{aligned} O & (x(u, v), y(u, v)), & A & (x(u + \Delta u, v), y(u + \Delta u, v)), \\ B & (x(u, v + \Delta v), y(u, v + \Delta v)), & C & (x(u + \Delta u, v + \Delta v), y(u + \Delta u, v + \Delta v)) \end{aligned}$$

で表される。領域 E' が領域 D' に変換されるので、面積がどのように変化するか観察してみよう。まず、微小長方形 E' の面積は $\Delta u \Delta v$ なので $\Delta u \rightarrow 0, \Delta v \rightarrow 0$ とすれば

$$E' \text{ の面積} \rightarrow dudv$$

となる。

一方、 D' の面積は、2つのベクトル \vec{OA} と \vec{OB} がつくる平行四辺形の面積に近似される。

$$\vec{OA} = \begin{pmatrix} x(u + \Delta u, v) - x(u, v) \\ y(u + \Delta u, v) - y(u, v) \end{pmatrix} \doteq \begin{pmatrix} \frac{\partial x}{\partial u} \Delta u \\ \frac{\partial y}{\partial u} \Delta u \end{pmatrix}, \quad \vec{OB} = \begin{pmatrix} x(u, v + \Delta v) - x(u, v) \\ y(u, v + \Delta v) - y(u, v) \end{pmatrix} \doteq \begin{pmatrix} \frac{\partial x}{\partial v} \Delta v \\ \frac{\partial y}{\partial v} \Delta v \end{pmatrix}$$

なので

$$D' \text{ の面積} \doteq \left| \det \begin{pmatrix} \frac{\partial x}{\partial u} \Delta u & \frac{\partial x}{\partial v} \Delta v \\ \frac{\partial y}{\partial u} \Delta u & \frac{\partial y}{\partial v} \Delta v \end{pmatrix} \right| = \left| \det \begin{pmatrix} \frac{\partial x}{\partial u} & \frac{\partial x}{\partial v} \\ \frac{\partial y}{\partial u} & \frac{\partial y}{\partial v} \end{pmatrix} \right| \Delta u \Delta v$$

となる。ここで $\det(A)$ は行列 A の行列式を表す。そこで

$$|J| = \left| \det \begin{pmatrix} \frac{\partial x}{\partial u} & \frac{\partial x}{\partial v} \\ \frac{\partial y}{\partial u} & \frac{\partial y}{\partial v} \end{pmatrix} \right|$$

とおき、これを変数変換 $x = x(u, v), y = y(u, v)$ の **ヤコビアン** という。ここで、 $\Delta u \rightarrow 0, \Delta v \rightarrow 0$ とすれば

$$D' \text{ の面積} \rightarrow |J| dudv$$

となる。

まとめると、 $\Delta u \rightarrow 0, \Delta v \rightarrow 0$ とすれば

$$E' \text{ の面積} \rightarrow dudv, \quad D' \text{ の面積} \rightarrow |J| dudv$$

であるから、領域 E' を変数変換で領域 D' に変換したとき面積は $|J|$ 倍されていることがわかった。

● 10-2 : 重積分における変数変換

E を uv 平面の領域として、 $x = x(u, v), y = y(u, v)$ によって E は xy 平面の領域 D に 1:1 で対応しているとする。このとき、次の定理が成り立つ。

定理 10.1. $z = f(x, y)$ は領域 D 上で重積分可能な連続関数とする。ヤコビアン $|J|$ が 0 でなければ

$$\iint_D f(x, y) dx dy = \iint_E f(x(u, v), y(u, v)) |J| dudv$$

が成り立つ。

この証明は複雑なので省略するが、それぞれの微小領域が $|J|$ 倍されていることから成り立ちそうだというイメージはつくだろう。以下、変数変換の具体例を計算していくことにしよう。

● 10-3 : 一次変換

a, b, c, d を実数とする。このとき、変換

$$x = au + bv, \quad y = cu + dv$$

を 一次変換 という。このとき、ヤコビアン $|J|$ は

$$|J| = \left| \det \begin{pmatrix} \frac{\partial x}{\partial u} & \frac{\partial x}{\partial v} \\ \frac{\partial y}{\partial u} & \frac{\partial y}{\partial v} \end{pmatrix} \right| = \left| \det \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \right| = |ad - bc|$$

となるので、一次変換によって uv 平面の領域 E が xy 平面の領域 D に 1:1 で対応しているとすれば、**定理 10.1** より次の式が成り立つ。

$$\iint_D f(x, y) dx dy = \iint_E f(au + bv, cu + dv) |ad - bc| du dv$$

例 10-1 以下の重積分を計算しよう。

$$\iint_D (2x + y) \sin(2x - y) dx dy, \quad D = \{(x, y) \in \mathbb{R}^2 \mid 0 \leq 2x + y \leq \pi, 0 \leq 2x - y \leq \pi\}$$

$u = 2x + y, v = 2x - y$ とおくと

$$x = \frac{1}{4}u + \frac{1}{4}v, \quad y = \frac{1}{2}u - \frac{1}{2}v$$

である。従ってヤコビアン $|J|$ は

$$|J| = \left| \det \begin{pmatrix} \frac{1}{4} & \frac{1}{4} \\ \frac{1}{2} & -\frac{1}{2} \end{pmatrix} \right| = \frac{1}{4} \neq 0$$

である。また、この変換によって領域 D は uv 平面の領域

$$E = \{(u, v) \in \mathbb{R}^2 \mid 0 \leq u \leq \pi, 0 \leq v \leq \pi\}$$

と 1:1 対応して、これは縦線領域（横線領域でもある）である。従って、

$$\begin{aligned} \iint_D (2x + y) \sin(2x - y) dx dy &= \iint_E u \sin v \cdot \frac{1}{4} du dv \\ &= \frac{1}{4} \int_0^\pi \left[-u \cos v \right]_0^\pi du \\ &= \frac{1}{2} \int_0^\pi u du = \frac{\pi^2}{4} \end{aligned}$$

レポート 10-1 以下の重積分を計算せよ。

(1) $\iint_D (x^2 + y^2) dx dy, \quad D = \{(x, y) \in \mathbb{R}^2 \mid |x + y| \leq 1, |x - y| \leq 1\}$

(2) $\iint_D (x - y)^2 (x + y)^4 dx dy, \quad D = \{(x, y) \in \mathbb{R}^2 \mid |x + y| \leq 1, |x - y| \leq 1\}$